

活動報告書

報告者氏名:春見 明子 所属:岐阜県立岐阜盲学校 記録日:2015年 2月 9日

【対象児の情報】

・学年 高等部普通科3年 男子 A

・障害名 視覚障がい(弱視)、知的障がい、てんかん発作

・障害と困難の内容

対象生徒 A は、普段は14ポイント程度に拡大した文書に目を近づけて読み書きをする。てんかん発作が1日に数回あり、意識レベルが低下することもあるが、素直で温厚な優しい性格である。

学習面では、小学校高学年程度の計算や漢字の読み書きができる。生活面では、実年齢に比べて非常に幼い面があるが、言葉遣いやふるまいなど、教師が言葉を掛けるとその場ですぐに直すことができる。

何事に対しても大変意欲的であるが、自分で考えて発言したり行動したりすることが苦手で、友だちや教師から意見が出るのを待って同じ事を発言したり、次に何をすれば良いのかわからなくなって、教師の言葉掛けを受け身で待っていたりすることが多い。2年時の福祉事業所での実習でも、常に職員の指示が必要であることが課題としてあげられた。また、教師や友達からの問いかけにどのように返答していいかわからないときに、とりあえず「はい」と応えたり、感想を求められたときは「楽しかったです」で終わらせようとしていたりすることが多かった。

【活動目的】

・当初のねらい

iPad は 2 年時に数学の時間に使用していた。読みにくい文字を拡大したり、課題を Keynote で提示したりすることによって、体調が悪いときでも、集中して取り組むことができた。また、それまでは宿題や持ち物などの忘れ物が目立ったが、Keynote で持ち物の確認をすることを楽しみにして、忘れ物もなくなった。そして、A から「もっと iPad で勉強したいです！」と意欲的な言葉が出てきた。このことから、iPad を使うことで、もっと A がひとりでできる活動が増えていくのではないかと考えた。そこで、3 年時では、視覚的に拡大でき輝度調節が簡単な iPad を利用しながら、A がひとりで自信をもって活動していけるようになってほしいとねがい、実践を行うことにした。

・実施期間

平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月（週 2 時間の自立活動のうち、1 時間を主として iPad の操作などを学び、生活単元学習や総合的な学習の時間でも使えるときは活用した）

・実施者 春見 明子

・実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

A はこれまでも、メモをとるように言われていたが、なかなか必要なことをメモすることができなかった。何を書いたら良いか、漢字はどんな字だったか思い出さうちに、何を書くつもりだったかわからなくなっているように見受けられた。

また、宿題を毎日やってくる大変真面目な生徒であるが、家族につきそってもらって行うことが多かった。しかし、大変まじめで、「僕もやりたい！」という気持ちが強いので、ひとりでできるような内容の宿題があれば、自信がつき、内容も定

着するのではないかと思われた。

本校高等部重複障がい学級では全員がパン作りの作業学習を行っている。しかし、材料や道具の準備、手順などが思い出しづらいためか、指示待ちの姿勢がみられた。これについても、工程表を参考にすることで、ひとりでもできることが増えてくるのではないかと考えた。

そこで、以下の3点に絞って実践を行った。

① 「日記を書いて振り返ろう」

Aは紙でメモをとることは忘れがちであったが、大好きなiPadだったらできるのではないかと考えた。メモの練習として、5月の修学旅行の写真をiPadで撮り、写真に一言日記をつけることからはじめた。最初は手書きメモのアプリで練習をしたが、ワープロ機能のあるアプリpagesを利用して、予測変換を利用しながらタイピング入力をする方がスムーズにできることがわかった。大変意欲的にタイピング練習に取り組み、文字の入力や写真の挿入もできるようになってきた。しかし、入力そのものはできるようになったが、同じ文章が続くなど、入力そのものに興味があり、内容にはあまり関心を示さなかった。



6月末の現場実習では、「1. 今日の仕事内容 2. がんばったこと 3. 注意されたこと」などあらかじめ項目立てしたテンプレートを用意しておき、Aがそれに入力をして、毎日の反省ができるようにした。しかし、入力ができるものの毎日の生活を振り返ることは難しく、同じ言葉を5日間書いてきており、本人もそれに疑問を感じることはなかった。また、一学期には「iPadは遊び道具」という気持ちが強く、好きなゲームの名前や趣味のキーボードの曲名を入力することがほとんどで、がんばったことの振り返りを自分ですることは難しかった。

そこで、2学期から、pagesを使って、写真も入れながらiPadで今日の出来事を日記に書いて振り返る練習をすることにした。

色々なアプリを試したが、操作がシンプルでAが使いやすいこと、一般的に用いられているアプリで周りの人がサポートしやすい、icloudで同期がとれることから、pagesを活用することにした。

② 「弁論大会の練習をひとりでやろう」

一学期に、弁論大会の予選会があり、Aも参加した。事前には練習として、毎日10回読んでくることを宿題としたが、ひとりで繰り返すことは難しく、家族に練習を聞いてもらうようお願いをしていた。しかし、iPadを使えばひとりでもできるのではないかと考え、iPadのボイスメモのアプリ(VoiceRecorder)の使い方を学習した。普通のICレコーダーに比べて、このアプリはボタンが大きく、操作も容易である。操作の練習を行って、ひとりでもできることを確認してから、「弁論の練習を毎日録音してきてね」と伝えた。



③ 「iPadで確認しながら作業しよう」

作業学習のパン作りは、Aが好きな作業のひとつであるが、手順そのものも思い出しづらい上に、視覚的にもどこに何があるか把握するのが難しいと思われた。Keynoteは、プレゼンテーションが簡単に作成でき、画面をタッチすると次のスライドへ進むなど、Aが操作しやすいアプリである。Aは昨年度、数学の文章問題を、このアプリを使って提示することによって、内容を理解することができていた。そこで、作業学習の担当教師にも協力を仰いで、Keynoteで手順表を作ることにした。



・対象児の事後の変化

① 「日記を書いて振り返ろう！」

1学期は一週間続けて、「注意されたことはありません」と書いてくるなど、今日の自分の姿を振り返ることが難しかった。そこで、「作業学習の反省を書く」ではなく「毎日がんばったことを日記にして書く」というように切り替え、文章を書くようにした。

2 学期の最初は1, 2行の短いものであった。そこで、楽しかった出来事を毎日振り返り、iPad で日記を書いて教師がコメントを入れ、やりとりすることからはじめていった。すると、毎日の出来事を思い出して書けるようになり、文章量が増え、内容も具体的になってきた。良かったことだけでなく、失敗したこと、今後がんばらなければいけないことも振り返って書けたときには、コメントの中で賞賛をした。すると、注意されたことや次に頑張りたいことについても、少しずつ書けるようになってきた。そして今では、残念だったことや、これから頑張らなければいけないことなど、反省点についてもひとりで書けるようになってきた。



さらに、自分で書いたことを振り返って、毎日の生活に生かせるようになってきた。例えば、自立活動の時間に歩き方の練習を行ったが（あごとお腹を突き出してすり足で歩くので転びやすいため）、その時にどんなことを教師に注意されたかを思い出して、家庭で書いてくることができた。そして、翌日から、自立活動以外の時間でも歩き方に気をつけるようになった。

このように彼の書く文章の内容や量に変化が出てきたのは、iPad が紙に鉛筆で書くより比較的手軽に文章が書けること、読みやすい大きさに拡大できるという予測変換ができるなど、A にとっての利点が多かったためと思われる。A はますます iPad で文章を書くのが好きになっていった。手書きも丁寧にできる A が、iPad で書くことに慣れていくうちに、手書きを嫌がるようにならないだろうかという不安もあったが、A の「iPad で書きたい！」という気持ちを尊重するようにした。すると、現在入院している卒業生への手紙を手書きで書いた際にも、自分一人で内容を考えて優しい言葉をたくさん書くなど、手書きの文章にも広がりが見られた。

② 「弁論大会の練習をひとりでやろう！」

弁論大会の練習は5月中旬から約1か月ほどであった。「iPad を使って弁論大会の練習を録音してきて」というと、A の目は輝いた。今回使用したアプリ VoiceRecorder が使いやすかったこともあるが、ひとりで繰り返して録音してることができるようになった。録音したものを手軽に聞き返すことができるため、「上手に話さなくては」という気持ちも高まるのか、読み方も上達してきた。当日もスムーズに読むことができ、周りの教師にほめられて、とても嬉しそうだった。これをきっかけに「iPad を使えばひとりでできる！」という自信もついてきた。



また、それから数か月して、福祉事業所との交流会であいさつを担当することになった。教師は何も言わなかったが、以前に使ったアプリ VoiceRecode を思い出して、家で自主的に練習して、本番に臨むことができた。このように、以前に使ったアプリを思い出してひとりで応用する姿もみられるようになった。

③ 「iPad で確認しながら作業しよう！」

ipad を片手に作業を進めていくことは A にとって、とても嬉しかったようで、使っていくうちに、Keynote を見れば自分から動ける姿も見られるようになってきた。しかし、A が一人ですべての行程を行うためには、行程をかなり詳しく記したスライドを作成しないといけないことがわかった。例えば、「砂糖をとってくる」という項目では、砂糖の置き場所と、そこまでの道順が必要である。また、どんな容器に入っているか、棚のどのあたりに入っているかも詳しく記入して作成しないといけない。ここに、教師のサポートがかなり必要であることがわかった。そこで、A が理解しやすい細かいスライドを教師側が作成した。

すると、次第にひとりで行える工程が増え、ひとりで材料や器具を取りに行くことができるようになった。また、計量の分量を確認しながら作業ができるようになった。

当初は卒業後、福祉事業所で作業を行うにあたって、自分でスライドを作成することができるように試みた。Aは2学期には、Keynoteの基本的な操作ができるようになっており、教師との約束を入力していたので、自分で作れるようになって良いと思い練習をしてみたが、自分で内容を考えて工程表を作るには至らなかった。それよりも、Aが自分から意欲的に作業ができるようになるためには、Aが迷っている部分について、教師がkeynoteに詳しく表して提示することが大切だとわかった。



上記のような、3つの活動を主としてiPadの活用を行った。その成果としてAは、学習したことを具体的に振り返り、次につなげることができるようになった。また、「ひとりで行える！」という自信をもって、前向きに取り組めるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

日記にすることで、学習の内容を思い出すことができ、次の日から自分で気をつけることができるようになったことに驚いた。また、実習の話をしていても、4月当初のような「おもしろかったです」「楽しかったです」だけでなく「実習で、〇〇さんに言われたことは…」など、具体的な話ができるようになった。

さらには、A自身からも「もっと、自立活動の勉強がしたいです！先生、お願いします！」と、前向きな発言も聞こえるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

Aがメモを取ることはじめ、日記で自分の姿勢が振り返られるようになったが、文章量も増えていった。また、それに伴って周りの教師の反応にも変化があった。ここでは、それを表にして示したい。

	文章量と内容		周りの教師の言葉
1学期	<p>6月24日 ここから書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ■何の作業をしましたか？ ■挨拶や報告をだれにしましたか？ ■言葉づかいはどうでしたか？ ■誰とどんなお話しをしましたか？ <p>ネジ付けの作業しました 挨拶や報告は大塚さんにしました。 言葉づかいは上手にできました。 みんなと一緒に家では何していますかとお話しをしました。</p>	・教師が項目立てをしたことについて、一言ずつ書き込む(内容は一週間を通して同じ)。	「〇〇くんはiPadが好きなんだね」 「ゲームみたいで楽しいね」
夏休み ～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・項目立てをしなくても、毎日80～100字程度の文章を書いていくことができた。 ・毎日の出来事を振り返って書いてくることができ 		・「iPadだと、こんなにたくさん書けるんですね。国語の時にも使ってみます」(国語担当教師)

	<p>るようになった。</p> <p>・楽しかったことなど教師に伝えたいことを書けるようになった。</p> <div data-bbox="347 257 743 416" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今日、作業でアソシアへ行きました。 僕はひも切り 新しい作業はそうりあみでした 初めてだったけどすぐ慣れてよかったです。 おつかれさま！またがんばろうね！</p> </div>	<p>・「ニュースをiPadで書いてきてください」(社会科担当教師)</p>
<p>10月 ～12月</p>	<p>・毎日300字程度で、写真も入れて頑張ったことの記録が書けるようになった。</p> <p>・頑張ったこと、学んだことの他に、これからどうしていきたいかも書けるようになった。</p> <div data-bbox="347 645 759 938" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>最後の実習では、昨日と同じ耐震棒の長さ決めをしました。 4日間違う仕事をしたり、同じ仕事をしたりしました。 大勢の利用者さんたちがいて、僕はにじのこが大好きです。 4月から、ずっとずっと利用者さんと仲良くして仕事に取り組んでいきたいと思います。 かずみ先生、午後の仕事を見に来てくれてありがとうございました。</p> </div>	<p>・「昨年度までより文章量が増えています。こんなに書けるとは」(昨年度副担任)</p> <p>・「おうちの人と一緒に書いているのかと思いました」(昨年度国語担当教師)</p>

・その他エピソード

これまでの実習で、常に職員の指示が必要であることを指摘されたが、実習で注意されたこと、友達の名前などを日記風にiPadに書き、次の日に生かせるようにした。また、名前を覚えるのが難しいので、仲間の名前を覚えたら、毎日メモをとるように伝えた。昼食の準備時にも、自分から「何か手伝うことはありますか？」と、事業所の指導員に聞きに行きなど、自信をもって活動できる場面が見られるようになってきた。そのようなAの姿は実習先でも評価され、就労先も決定した。

今は、就労後に運動不足になることが予想されるため、iPadで腹筋運動の記録をつけている。Aは肥満傾向にあるため、毎日腹筋を行いiPadで写真と記録メモをとっている。iPadに記録することによって、意欲づけにもなり、毎日続けることができています。

タブレット端末は、紙のメモ書きに比べると、文字を大きくしたり輝度を変えたりすることができる。入力もAにとっては簡単である。また、写真や動画も一緒に記録し、後で見やすさを調節して確認することもできる。今回の実践を通して、Aは実習や授業で学んだことを自分で記録すれば、読み返して確認ができ、次に生かしていけることがわかった。そして、そのためのツールとして、iPadは有効であったと思われる。必ずしもひとりですべての操作ができるわけではなく、周りの支援は必要とするが、iPadを使うことで、Aが社会の中で自信をもって活躍していけるのではないかと考えられた。Aは将来、自宅を離れて生活していかなければならないかもしれない。そのとき、今回教師と日記のやりとりをしたように、家族とつながっていくためのツールにするなど、ますますAにとってiPadの使い方が広がっていくことを願っている。

僕は数字と自立と社会と作業と体育が大好きです。これからも、もっとたくさん勉強してかっこいい大人になりたいです。腹筋も頑張ってます。

